

会 議 録

会議名	令和6年度 第3回社会教育委員の会議
開催日時	令和7年2月3日(月)午前9時30分 ～ 午前11時30分
出席者名	[那覇市社会教育委員] (議長) 安里幸治、(副議長) 土屋恭子、上原博、仲村渠好美、柴田聡史、 添石幸伸、佐渡山要、宮里恵、仲吉恭子 [那覇市教育委員会説明者等] (生涯学習課) 課長 松田信男、主幹 久場祐介、主査 仲村美紀、 主任主事 石垣真由美 (青少年育成室) 室長 田場壮子 (那覇市立公民館) 中央公民館館長 伊禮道子、主幹 又吉剛、 牧志駅前ほしぞら公民館長 富村奈央、小禄南公民館長 小渡美奈、 首里公民館長 金城浩二、石嶺公民館長 大城義智、 若狭公民館長 宮城潤、繁多川公民館長 南信之介
議題	1.報告 「教育委員会が行う社会教育に関連する事業報告」 2.その他 「第3次生涯学習推進計画について」等
配付資料	(事前送付) 通知文、資料「令和6年度第3回那覇市社会教育委員の会議 生涯学習課・ 公民館・図書館 社会教育関連事業」 (当日配付) 会次第、那覇市社会教育委員会議規則、委員名簿
審議状況(経過、結論)以下のとおり。	

Ⅰ 報告 「教育委員会が行う社会教育に関連する事業報告」

●今回報告を行う理由は、社会教育委員の皆様の職務の一つとして、教育委員会に対して意見を述べることで、そのための調査研究を行うことです。付随して、委員の皆様は、教育委員会が実施する社会教育に関する事業の報告を行うことで、ご理解を深めていただきたいという趣旨です。

主題に沿って、生涯学習課、公民館、図書館の順で報告します。

<生涯学習課(まーいまい Naha 含む) 報告>

○おはようございます。

私は社会教育指導員 OB 会に所属してまして、いろいろ生涯学習課の皆様とか公民館、図書館、いろいろ利用させていただいたり、関わりを持たせていただいて、本当に日頃も一生懸命取り組んでいらっしゃる姿に、いつも本当に頑張っているなあということを常々感じております。お疲れ様でございます。

一つ質問があるんですけども、4 ページの地域学校協働活動推進事業の中に、2 番目の地域学校協働活動というのがありますね。

これはコミュニティスクールとの関係もあって、城北小学校、城北中学校が、今年度初めてのコミュニティスクールに指定されたということを聞いておりますけれども、ここで言うコーディネーターということについてなんですが、他の市町村では、学校のコーディネーターという方がいらして、那覇にはそういうシステムがないと思うんですけども。石嶺中学校も放課後子ども教室で関わっているものですから、今年度、地域の住民として、皆さん、地域の人たち、まちづくり協議会の人たちが中心だったんですけども、家庭科の先生から頼まれて人を集めて、そこに入って授業でまたワークをするお手伝いとかもさせていただいたんですが、その先生が、他の学校はコーディネーターがいるので、地域との連携がすごくやりやすいということをお聞きしたんですね。

それで、那覇の場合はその辺がどうなっているのかなと少し、思っていましたのでその辺のことをお聞きしたいと思いますが、よろしくお願いします。

●地域学校協働活動推進員という方が、各学校の方に 1 名ずつ配置されておまして、その方がコーディネーターの役割を担うことになります。

大名小学校は、早めに推進員の方を配置させていただいており、今年度からは城北小、城北中に配置しておりますので、まだスタートしたばかりです。大名小は結構うまくいっているような感じになっています。今後、推進員の方が、地域の方とつなぐ役割を担っていくことになります。

○今のことに関連して、先日別の会議があって、その中で(若狭公民館)館長から、コーディネーターの役割がとても重要だと説明がありました。よければ、館長から何か説明などいかがでしょうか。

●地域学校協働活動推進委員が配置されるということで、学校と地域の協働が進んでいくということは非常にいいなと思っていますが、やはりまちづくりであったり、学校教育だったり、そして生涯学習の分野、各行政の縦割りを越えた中でのコーディネートする人材として、非常に役割が重いなというか、非常に重要な職責を果たす立場になるであろうということは感じています。

今始まったばかりなので、今後期待するという話を先日別の会議で、お話をさせていただいたというところでは。

○大変ご丁寧な説明いただきまして、ありがとうございました。

今のお話とも関連すると思うんですが、やはり今、教員の負担軽減と表裏一体で、地域の支援とか、地域自主主催とか、いろんな言葉がキーワードとしてかなり出てくるようになり、それだけ教育環境が変わってきていると思うんですね。

そういった意味で、2 ページの「なは教育の日」、那覇市における教育の原点であるというところの出発と、市民全員、全体で教育に関わる大切さを共有する契機とすると、非常に重要な、年間を通しての一番大事な場なんだなってすごく感じてます。

ただその中でやはり、この課題、今後の方向性の中で、資金的な予算の課題であったりとか、私も何度か参加したことあるんですけども、式典や表彰のところは非常に盛り上がるんですけど、その後の第二部が、本当はそこが一番大事なはずなのに皆さん抜けてしまう。だから、本来の原点である、那覇の教育のあり方、しかもこれだけ教育環境が変わっていきこうという中で、非常に市民も一緒になって共有する場なんだろうなと思ってます。

一つ質問です。この予算の課題、あるいは第二部へどうやって引きとめるかという課題に関して、現状でもしお答えできるのであれば、どのような方策を今後考えているのかというのが一つですね。

あと、4 ページの方で、今の質問に関連しますが、地域学校協働活動推進教員の負担軽減を図っていく一方で、地域の支援という中では、この推進員の方を増やしていかないといけないと思うんですけども、今現状において、効果不足の状況がどのように分析されているのかということと、先生方の負担軽減を図る一方で、この推進の方々をもっとふやさなければならぬと思うんですが、そこに対して、スピード感というか、教育委員会の方ではどのように協議されているのか、これもお答えできる範囲で構いませんのでお答えください。

●なは教育の日に関する予算の確保と、それから参加者を引き止めるための進め方等の課題について、まず予算の確保に関しては、令和7年度予算として、財政課含め担当部局の方に予算要求をしてる段階ではございますけれども、なかなか見通しとしては厳しいものがあるという認識を持っているところです。

しかしながら、今後、今回活用させていただいた外部団体の補助金の活用等々含め、活用できる手段については、あらゆる策を検討しまして、予算の確保について引き続き努力して参りたいというふうに考えています。

続いて式典当日の参加者を引き止めるための方策に関しては、実行委員会という形でこれまで開催をしてきておりまして、その中で各社会教育団体の皆さん等々についてご参画をいただいて、様々な経験や知見をもとにアドバイスをいただいているという状況でございます。

その中で出てきた一つの意見としては、(プログラムについて)先に、第二部の、この講演会等を設けることによって、先にこのお客様を集めて、その方が、この表彰式にも引き続き参加できるような動線といいますか、プログラムの構成といったものの工夫が必要なんじゃないかというふうなご意見がありましたけれども、まだまだ今回やってみた中で、それ以外のいろんな視点で検討する必要があるかなというふうに思っていますので、今後の検討委員会等々の中で議論を深めながら、課題に対応していきたいというふうに考えています。

●地域学校協働活動推進委員の配置なんですが、学校教育課が推進しているコミュニティスクールと連携

して、コミュニティスクールが順次配置していく学校が決まっておりますので、来年度は、那覇中校区に推進員を 1 名ずつ、那覇中、若狭小、那覇小、泊小、こちらの方に推進員を配置する予定としております。今後はまた順次導入するところに、1 校に 1 人ずつ配置していく検討をしております。

○予算の確保であったり、地域の支援という意味でも、今後ますます準備の段階で、いかに協働していくかが非常に大事だと思うので、教育行政だけじゃできないことだと思うので、ますます一緒になって頑張ってください。

○まーいまい Naha さんの方に質問がありまして、資料 17 ページの各事業の実施の表、下段なんですけども、令和 5 年度からオンラインがほぼなくなってると思うんです。委託講座除きまして。それは予算的なものなのか、技術的なその人員のものなのかということを質問させてください。

●オンライン講座について、直営講座の方で括弧書きしているものですが、米印 2 番、この表の下の方に少し説明載せておりますけれども、コロナの関係で、動画配信を行ったという分類です。コロナの制限などが緩和されて、それに伴って、対面での講座に戻っていったという形です。

○（オンラインが）なくなった理由を、予算的なのか、コロナではなくなったからなくしただけなのかでいうと、コロナがなくなったことが理由ということでしょうか。

●予算的な都合ではなくて、コロナ禍が明けたということに伴って、対面での講座実施に戻っていったということです。予算の都合ではないです。

○ちょっと戻って、那覇教育の日に関してなんですが、私、実行委員なんです。

10 年ぐらい実行委員やってまして、以前からお金がない（状況）。以前は会長が、教育団体の関連会社など回って寄付を募ってたんです。それが大変だっというようになって、予算を確保してもらって。今回補助金をもらってますけど、こんなのがないと、また以前に戻って、役員が寄付金をもらいに回らないといけなくなるかもしれない。ぜひ頑張ってもらって予算を確保していただければと思います。

○先ほどのまーいまい Naha の講座なんですけど、せっかくなんで、対面に戻していくってのはそうなんですけど、オンラインでの参加もしやすいって方も中にはいると思うんで、試験的に両方やってみるのも策なのかなと思います。

あと、なは教育の日の事業に関しては、教育に関する実現について一番になるというところで、しっかりと予算請求しながら、市民全体で、教育に関する機運を盛り上げているところでも、あわせて声を上げていかなければいけないかなと。私もですね、一緒になって声をあげていきたいなと思ってます。

<公民館の事業報告>

○今、オンライン利用が 60%ぐらい超えているとおっしゃったんですけども、資料ではどちらを見ればよいでしょうか。

●資料には提供してないんですけども、令和 4 年度から施設利用の申請をオンラインでできるという形に

なっております。この申請の割合が、全申請に対して 60%超えてきているという状況になってます。

○オンライン利用って、具体的にどういったことを申請して利用されてるんですか。

●公民館施設の空き状況を検索し、仮予約をして、それをこちらでオンライン上で審査して、利用許可を出すという形です。その利用申請が増えてきています。

○ただいまの説明の中でキーワードになってるとやっぱり、持続可能になっていうか、地域連携という気は出てきたと思うんですけども。もしよろしければ、委員の皆さんの中から、今思う、今後負担がなく、持続可能の方策っていうのは、どういったものがあるのか、何か（ご意見があれば、お願いしたいと思うんですけども。先日の県の社会教育委員大会でお話されたのは、地域をどういうふううまく巻き込んでいくかっていうところで、若い世代をどうやって育てるというか、関わりやすいような雰囲気づくりも大切だねっていうところお話をしたんです。

でないと、世代交代もいつまでたってもできないし、持続可能っていうのは無理だよなって話だったので、参加しやすいっていう雰囲気づくりもとても大事なかなと思ったんですけども。

○講座自体の参加者数がこんなにあるのはすごいなと思ってんですが、（資料の）19 ページと 21 ページの、オンラインの参加がそのまま出てるんですけど、1 万 6000 人近い利用者数に対して、まだ 510 名の利用なので、すごくもったいないなあって思って、このすべての講座が、アーカイブでもし見ることが可能であれば、あとでも見れるんじゃないかなということと、第3次生涯学習推進計画の中の 31 ページ目に、やはりデジタルトランスフォーメーションとか、SDGs とか持続可能ってあるんですけども、今後、沖縄ってどんどん地縁が減ってくるのかなと思うときに、まず民生委員の減少とか、あとは独居の高齢者とか、家から出れない子たちが参加する場とかはオンラインなのかなと思ったんです。

で、やはりこの不登校の子たちが実はコロナ禍の 4 年間で、オンラインで授業参加した子たちが増えたんですね。ただオンラインがコロナが終わって止まっちゃったんです。先ほどの講座も同じで、コロナが終わったから終わっちゃったことが多くてですね、結果的に居場所がなくなっちゃったと思うんですけど学びたい気持ちはある。でも社交不安障害とか、人とかかわりが難しい子たちってのはそういうことを気にするってことだったり、あと自閉が強い子たちだと出れないので、その子たちがこういう講座を見ることが可能であればなと思ったんです。

もう 1 点、私の周りになぜか社会教育士を取りたいって方がいるんですね。沖縄県の社会教育士の資格試験が 9 月ぐらいしかなくて、去年からずっと問い合わせるんですけども、（定員の）母数がわからないわからないってなって、9 月か 8 月に聞いたら終わりましたって言われたんです。1 週間とか広報してなくて、しかも受けれるのが 10 名ちょっとなんです。

国の資格のはずなんですけども、そこでしか受けられなかったのが、残念だと思ったときに、那覇市の地域コーディネーターとか、あと民生委員もそうですけど、そういう社会教育のことをしたいときに学ぶ場がないなというときに、那覇市さんのこの講座の中にそういうことがあったりとか、あと認知症対策するような方たちの学びの場とか、高齢者が自宅で介護受けてる時の家族の不安を安らぐための講座とか、（外に）出れない形の講座ができたらいいなと思ったんです。

もう一つは、今、子どもたちに限らず、高齢者の方も LINE 等でやりとりしますので、那覇市って LINE で行政に繋がるので、例えば高齢者の方が LINE で動画を見て、この高齢者の方がそのラインからまた、繋がる

ことができれば、独居の高齢者の安否もできるかと思うんです。

つまり講座を開いて、また公民館に来てくださいというような案内もできるのかなと思うと、結構いろんな形で地域の方をつなぐことが、孤立社会から変わっていきけると思うんです。

こんなにいい公民館があるので、那覇市って都会化されてるので、ざっくばらんに混ざれるチャンスをオンライン使えばできるのになっていうときに、(オンラインが)なくなっていったらのがすごく気になってるところです。

まとめると、講座でアーカイブスで学べるようなものができれば、後から学ぶような社会教育・生涯学習する形が増えるのかなということと、孤立してる方たちが繋がるきっかけも作りつつ、なおかつそこから公民館に人を呼ぶことで、この無縁社会を予防するってこともできるんじゃないかなということで、ぜひこの推進計画の中にもあるんですけど、この DX の推進をどうやっていくのかなってのはすごく興味があるんですね。

あともう 1 個持続可能的には人との関わりが今減っていくのがすごく心配だと思っているので、そこを何かこの講座とか DX 使ってできたらどうかなあというのが思ったことです。

○今のご意見は、いろいろな方策があるので、試しに残すものを残しながら変えていくものは変えていきましようということだと思うんですけど。

●オンラインとの垣根もだんだんなくなってくるのかなとは思いますが、アーカイブになると、著作権などもあるので、検討しながら進めていきたいと思います。

○昨日、図書館・公民館に行って、暑かったんですよ。

この時期、公民館もそうなんですけれども、11 月からは、クーラーは使えないっていう状況ですよ、どこでも。それはわかるんですけれども、暑い中で、子どもたちを連れのお母さんたちが何組かいて、暑くて長くそこには居れないんじゃないかなって気がしたんですね。利用しようにも、あそこ暑かったよねって足が遠のくんじゃないかなっていう気がしたんです。だから、そちらの運営とは直接かかわらないとはいいとは思ってんですけど、那覇市の方針かな、ちょっと考えて欲しいなと。

季節の期間じゃなくって、気温が幾ら、何%とかって、それ以上になったら、クーラーはいいよかっていうふうなことに変えてもらえたらうれしいなという気がするのと、古い建物だとですね、トイレの利用が非常に不便なところが多いんです。特にちっちゃいお子さんを連れている子たちは。

多目的トイレがあればまだいいんですけど、あるところも少ないと思いますし、和式が多いっていうのが、そういう状況だとすると、利用する側は「あそこはねえ」というふうな気持ちの方が少し出てくるところもあるのかな。他目的トイレができてるところもあるんですけど、その中に一つ加えて欲しいのが、子ども用の便座とか、使えるようなものも、一つ加えて欲しいな。そうすると、若いお母様たちは、便利だったら、使いやすいから行きたいわっていう気持ちになると思います。

●施設の改修工事とかに伴っての、トイレ等の整備になっていくと考えております。

また首里公民館、来年、改修工事が入るんですけど、今あるちょっとトイレを少し移動させて、より使いやすい形にしたいなというふうには検討しております。

○まずこれだけ充実した講座をそれぞれの公民館で実施されている、なおかつそのカテゴリーも複数あって、素晴らしいなと思っております。近隣の他の市町村なんかを見ますと、やはり公民館で多くは自治公民館で、

市内には中央公民館が一館、というようなつくりのところが非常に多くて、やっぱり自治公民館ですと、その自治会の活動拠点みたいなところがあるので、そこに暮らしてらっしゃる方が利用しにくいようなところも課題としてあるというふうに伺います。

そういった意味で、これだけ公民館が整備をされているという環境がとてもいいなと思います。

それをどう活用していくのかというところで、先ほどの地域連携というところをより一層推進していきたいと。やはり多くのところが、自治会単位で自治公民館を中心に地域を活性化していきたいけれども、自治会は加入率が低いというような状況があるので、こういう、公民館を拠点にそこと切り分ける、要は自治会云々というのは切り分けて、もう少し広いエリアで、地域のことを考えられる拠点ということで非常に意義があるなというふうに思っております。

その上で、先ほどの課題で一つあったのが、乳幼児学級が、いわゆる市が行っている子育て支援の取り組みが充実しているがために、どちらかというところの方に（参加する）、と。これはおそらく、内容云々の問題とそれから子育てに関わる学びの機会っていうものに対して、情報がどういうふうに自分のところに届いてくるかっていうところの問題もあるんだろうなと思っています。

おそらく乳幼児に限らずだと思うんですが、高齢者もそうですけれども、いわゆる市役所の中でメインにそういったところを担当してるところとか、或いは類似の機会なんかを用意しているところと、実際こういう講座をしていたり、或いは内容自体はそれぞれの公民館で企画されてるのかもしれないんですけども、うちもこういうことやってるよ、子育てに関わるこういう講座あるよっていうようなところの案内というのがいわゆるそういう垣根みたいなところを超えた形で、必要な方対象の方に届くような仕組みっていうのがあるのかどうか、或いは事前のところできちんとすり合わせなり調整だったりとか、そういうことが内部でなされているのか、教えていただきたいと思います。

●乳幼児学級に関しましては、近隣の子育て支援施設のチラシを配布したりですとか、若いお母さん方なので、SNS だと応募の方が早いということで、SNS を活用した広報などを行っております。

こちらからも、子育て支援機関の紹介のパンフレットですとか、そういった内容、どういった事業をしますよっていうような事業内容を説明していただいたりというような機会も設けさせていただいております。

ただ、高齢者学級に関しては、そこまではないかなと。施設利用で、社会教育福祉協議会の方が、運動サークルなどをやってたりはするんですけども、直接に講座でっていうのはちょっとまだ聞いたことはないです。

○先ほど他の委員の方からもありましたけれども、どういう形で、今後来て欲しいような人たちに繋いでいっていかっていうときに、どんな情報の取り方、伝え方でもいいと思うんですけども、どういう機会を通じてでも、一度その自分の近くにある公民館で何かしてもらおうとか、来てもらおうとか、そういうような接触の機会みたいなものを、いろんな形で増えるような試みをされたらいいかなという意見です。

○各館の講座の数とか取り組みですね、非常に充実していて、現場の皆さんが非常に頑張っていることで敬意を表したいと思います。

ただ、今後地域の連携がますます問われる中で、18 ページの利用者数の減少が非常にビジュアルで映るところで、特に平成 28 年、29 年あたりと比べると、激減してるなと感じます。

もちろん、その間コロナの影響があって、コミュニティとかコミュニケーションの取り方、あとは良い意味で、いろんな場所で主催者が増えたり、また Web で参加できるとか、非常に環境変わったことも一つなのかなと思うんですね。

ただ、やはり本当にどこで原因があるかという、これから事務方で分析っていうことですけど、せっかく今日各館長いらっしゃるので、一番現場で肌で感じている館長さんが、この数字の減少の要因ってのがどこにあるのかなと、どう肌で感じてるかというのと、もしかすると場合によっては今後もっと利用しやすいための、環境づくりのために、何か館の利用の制限とかですね、このように制限を除いていくと、もっと利用しやすくなるような声が、地域からとか、また館長自身が感じてるとか、そういうところがあればぜひ、どなたか館長の方から、現場の声、ちょっと聞かせていただきたいなと思います。

●繁多川公民館です。

利用者減の理由で私が大きく思うのは二つあって、一つは先ほどあるように、いろんな繋がりが必要だという時代に入ってきたのと、それから自治会とか民生委員さん、地域を支えていたような方々が、コロナ禍も加えて、すごく担い手が減少してきているっていう状況がとてもあると思います。

そういう意味では、そういう地域団体が自信を持ったり、もっと楽しく繋がって動いていきたいという機運づくりのところに結構エネルギーを注がないといけない。それが実は利用者数とか講座数に入らないんですよ。つまりこれは実施した、受講した人の数であって、公民館の機能の、特に「つなぐ」ような機能って、ここに反映されないんですね。だけど力を入れていかないといけないというようなこともあったり、私たち黒子にならないといけないときがあるので、公民館、関わってたの、みたいなことも実は多々あります。

そういうのもあって、主催事業じゃなきゃなかったらカウントされないの、減少に見えるし、むしろそこに力を入れていきたいなっていうのも一面であるかなというふうに思っています。

あとは、公民館がそういう掘り起こしというか、そういうのに力を入れていくというようなことも、評価の中に入っていくようになるといいなと思うところが、とても感じる場所ですね。

●（若狭公民館長より）この利用者数、公民館の施設を利用した利用者の延べ人数ということなんですけれども、これだけでは実態がわからないなって思っているところが正直あります。

というのは、若狭地域だと、なんみん祭っていうイベントがあつてですね。波上宮で 5 月にやってるんですけど、その時に、雨天の場合は公民館を利用します。晴れていれば、波上宮であります。2 日間のイベントです。その 2 日間のイベントで、雨天であれば、1000 名単位の方が利用するという形になるんですね。

でも晴れてれば、それ利用されないわけです。晴れてあろうが雨であらうが、実行委員として公民館も関わっていろいろ動いているということは確かです。

ただ単純に、天候によって、2 日間で 1000 名単位の利用者数が変わるっていうことを考えると、利用者数だけでは、実態はわからないな、計れないなっていうことがまず一つあるかなと。他の館にも似たような状況があるのかなって思ったりします。

あともう一つですけれども、先ほどお伝えしましたように、施設の利用者数、ということになってます。

これまでの議論の中で、地域との連携非常に重要だというお話もある中で、先ほど、公民館県内でいうと、大体中央公民館と自治公民館っていう自治体が多いんですけど、県外に行くと、大体学校区に 1 館とかあるっていうのがスタンダードの中で、那覇市 7 館というのはやっぱり少ない。一館あたりのエリアが広域であるということっていうと、公民館に生活圏に公民館がないという地域もあるので、そういったところに積極的に出て行くようにしています。

学校とか、学校区のまちづくり協議会とか、そういうところと連携した事業も非常に多くやってるので、例えば、若狭の場合だと防災キャンプってイベントがあつたり、そういう事業をするときには、出かけて行ってそちらでやるので、何十人って参加しても、それは施設の利用者数には含まれてこない、ということがあります。

なので、利用者数っていうのは指標の一つではあるんだけど、それだけではかれないものもあるなっていうことは感じているところです。

○指名していいですが。私は地域が石嶺なんですけれども、よく石嶺公民館に足を運ぶんですけども。子どもたちが入口の近くで、勉強したりしてるんですね。那覇市内は勉強する場所が少ないって、子どもたちからすごい意見があったり、県外に比べると公民館も少ないというところで、積極的にそうやって子どもたちが参加しやすい雰囲気をつくられてるのか、何かアイデアであったり、実際の参加人数とか、もしわかる範囲であればお願いします。

●石嶺公民館なんですけれども、石嶺（公民館）の利用者数が減ってきたのは、各サークルの高齢化なのかなと思います。高齢化に伴ってサークル人数が少なくなってきて、サークルとしての利用の数は多いんだけど人数自体は減っているっていうような傾向が今あるかなと感じております。

そういうこともあって、なるべく子どもたちを、若い世代ですね、公民館ってこんなところなんだ、公民館行ったら何かできるっていうような（雰囲気をつくれたらいいのかなと思ひまして、先ほど仰ってました、ロビーの方にパーテーションを作って、静かに勉強できる場所で、また子どもたちの居場所、放課後、学童みたいな感じになってるんですけども、不登校の子であったりとか、放課後、学校から家に帰る前にちょっと勉強できる場所、皆で交流して遊べるような場所、居場所を作ってます。

で、常設で卓球台を置いてですね、二階の方にあるんですけども、空いてたら自由に使えるよっていうので、子供たちが放課後來て、結構使われています。その影響か、最近大人が使うようになってきたので、少し変化が出てきたかなとは思ってます。

●公民館の（利用者が）減少してる中で求められるなって改めて思うのが、先ほどの（意見で）コーディネート機能強まってるよ、地域の繋がりがづくり、繋がってますよっていうことと、先ほどのアーカイブ化とか、どう公民館に最初にかかわるか、きっかけづくりっていうところが重要だと思うんですね。

そのために、公民館職員や公民館と関わる地域の方々の、きっかけの出会いから、誰かの孤立とか、地域課題と言われるものにも繋がる、このプロセスデザイン、その過程をどう作っていけるかっていう、スキルアップが非常に求められてきているんじゃないかなというふうに思います。

どうしても単発の講座と単年度で見えますけど、そうなってくると数年スパンで関わった人や団体等に寄り添っていく必要があるんですね。

そういうことが多分これから重要で、それが活発化してくると、地域で自主的に活動する人たちが増え、それが誰かの勇気や元気、孤立を防いでいく人たちが増えというふうに波及していくと、利用者数が激増しないと思うんですけども、維持か、微増していったりするような、人から人が誘っていくようなところっていうのは、可能性としては高いんじゃないかなと感じています。

○せっかくなので小禄南公民館長にもお話いただきたいんですけど、私うるく地域づくりといって、小禄地域全体のまち協の会長をしてるんですよ。市民大運動会や実行委員会を、何回も公民館でやって、すごい人数がくるじゃないですか。さらにはうるくむらあしびといって、舞台発表の場で、出演者が 324 名、観客が 500 名ぐらいと、多分これカウントされてないんです。

事務局は館長にしてもらって文章を作ってもらったり、総会とか司会してもらったりとか、地域の繋がりをやってもらってるんですが、これ大分負担なんじゃないかなと思うんですけど。いつも会合が 7 時からとかやって

まして、仕事何時までやるのかわからないんですけど、多分負担じゃないですか。

●小禄南公民館です。

3 大行事がありまして、ゴルフグランドゴルフ大会と、一番大きいのが大運動会、3 月 1 日にむらあしびという、学習の舞台発表のイベントがあるんですけど、結構準備とか調整とか大変なんですけど、これで地域の方と、自治会の方とか、JA の方とか、あと学校関連の人とか、割とつながることができまして、これをきっかけに、お会いした人と、次年度、戦後 80 年度の講座を企画しておりまして、その繋がりとかいろいろできたので、地域に参加することは、私にとってはプラスだなと思っていて、それをそのまま職場の方に持ち帰って、こういう講座やろうとか、こういう問題があるらしいよとか、情報収集に繋がっているの、表には見えない数字はあるんですけど、今後には反映されてくるかなあと考えています。

あと先ほどの利用者数が減ってるものは、オンライン化されて、割と個々の申し込みが多いっていうか。音楽の練習をしたりとか、楽器の演奏の練習したりとか、1 人とか 2 人とかの利用者数が多くなった気がします。今までは公民館って定期利用のサークルが利用するってイメージだったんですけど、最近は小禄南公民館は駐車場が半分ほど使えなくて、定期利用団体もお休みしてるところが多くて、公民館まつりも今回開催しないことになりまして、その分空いたスペースを単発で 1 人とか 2 人とか利用する方が多くなったので、コマ数は増えてるんですけど、利用者数は減ってるっていう形になります。

●首里公民館です。

(公民館は) 老朽の方がひどくて、次年度から改修工事がありまして 1 年間休館する形になるんですけども、それにあたって今年度、定期利用団体が 71 団体いまして、そのうち、1 年間休館するものですから他の場所の方に移っていただく形で、石嶺公民館の方に約 20 団体ぐらい移して、他は解散だったりとか、他の自治公民館とか利用していただく形で、ご不便をおかけする形になってるんですけども、改修後に関しては、定期利用団体の方が戻っていただけることを期待して、準備していきたいと考えております。

先ほど若狭公民館長から(話が)あったんですけども、利用団体の数値的に利用は減ってるんですけども、学習スペースとかカウントされないものに関して、結構首里公民館、昨年度に比べて上がってるんですけども、28 年 29 年に比べて下がってる状況であるのですが、学習スペースは比較的結構利用する、小学校中学校高校生とか、大人、お年寄りも含めてですね、結構利用されてるカウントされない部分もありますので、個人的にはちょっと減少してるというイメージがなくてですね。学習スペースがちょっと広いので、少しはにぎわってるって個人的に思ってるんですけども、私のカウントされてる各部屋ごとのものに関してはやっぱり空き状況はあるかなって感じはします。

一番は、他の公民館もそうなんですけども、定期利用団体のメンバーの方が減少してるってのが多分原因かなって感じはいたします。

○これは質問ではなくて感想意見なんですけど、今現場の館長の皆さんのお話を伺っていて、やはり利用者数が、要は、今の公民館の実態を反映するものではないという、それによって評価しきれないっていうところだと思います。公民館とともに地域の社会教育関係団体とか、サークル団体とか、いわゆる市民の自主的な活動であったり、そういったものを、場所を提供するという形で支えてきたのと、それから講座を実施するということによって学習の機会を提供して、それを保障してきたと。二つの側面あると思うんですが、いわゆる、施設としての公民館と、機能としての公民館ということ、二つ考えたほうがいいのかなと、今お話を伺って思いました。

施設に関して言えばオンラインの台頭とか、いろんな年齢構成の変化とか、いろんな環境の中で減っていく可能性はあるんですけども、機能としては、繁多川公民館長がおっしゃったように、いろいろ求められていたり、あるいは出かけていたりとか、いろんなところが出てくるんだろうと思いますので、可能な限り、これは難しいと思いますけれども、そういった新たな役割とか、反映されていないところというのが、指標という形にはならないと思いますけれども、情報の提供というような形で、それぞれの公民館はここに載らないような活動としてこういうことをやっていますよ、こういう取り組みをしています、こういうこと連携してこんなことやりましたというようなところも、これは市民のアピールにもなると思いますので、情報として整理をしていただけるとありがたいなという要望です。よろしくお願いします。

○僕はほしぞら公民館長等の意見も気になってるんですけども、質問というか、先ほどからある測り切れない指標もあると思うんですが、実は昨日、読谷のまなびフェスタに行った時に、去年度と比べて、サークル数が半減してたんですね。婦人会も、5年前17あったのが、今7か4しかなくなってきてんですよ。

で、もう1個、昨日帰りに言われたときに気になったことがあって、サークル作りたくても20名からなんだよと言ったんです。今の時代、20名を集めるのって相当難しいんですよ。

そういうときに、先ほど他の委員がおっしゃったみたいに、機能の面なんですけど、公民館利用の規定が古い場合もあるのかなと思っていて、そういう規定ってどうなってるのかなあってちょっと興味があったのちょっと質問しただけですけども、じゃあ、ほしぞら公民館長さんに、規程どうなのかなって。

●ほしぞら公民館のお話をさせてもらってもよろしいですかね。

ほしぞら公民館は、他の公民館とはちょっと違っているのかなって私の感じであるんですけど。

まず、複合施設の建物にあるからか、サークル自体も今、とても多くて、143団体あります。

なので、毎日サークルさんの方で活動埋まっていて、空いたところに、単発で利用するっていう形のものが多くなっています。利用者の方がうちの方も減少してるんですけど、それはなぜかなって考えたときにですね、貸館自体の稼働率は下がっているとは思えないんですが、サークルさんがやっぱり高齢化してきてるので、参加者数が減ったり、またサークルのメンバー自体も少なかったりっていうことがあるのかなと思っています。那覇市はサークルの作成が10人以上なので、結構気軽にできる形で、今年度もまだ新しいサークルとかできてきてはいるんですけど、あとは、先ほど小禄南館長からもありましたが、単発の利用も、個人とか少人数の利用が本当に増えてきてるなという感じがします。

楽器の練習だったり、ピアノの練習だったり、二、三名で、あとはダンスの練習ってことで学生さんが使ったりとか、本当に少人数での利用が増えてるっていうことが、利用者数には繋がらないのかなということは感じています。

あとは、ほしぞら公民館は、地域の方が使うっていうよりは、那覇市、広域から利用者の方が集まってくるっていう感じがあるので、地域との連携がちょっと弱いのかなと、他の公民館に比べてということを感じていて、今年度は銘苅の方と連携した講座をするんですけど、そこの方も公民館、どういうふうにするかわからなかったっていう話とか伺ったので、多分距離があるので、気軽に利用しづらいのかなというところもありますので、私たちの方から次年度は地域の方で講座を行って、公民館が身近になってもらうきっかけづくりをしていきたいなと考えています。

○利用者が、高齢化でメンバーが減ったり、単発での利用が増えてると、そこがなかなか参加人数、利用者人数に出なかったっていうところですね。

規則や規定は、この団体だけじゃなくて時代に沿った形で、それが壁になって、どんどん改正していくっていうのは、一つなのかなと思いました。

<図書館 事業報告>

○質問ではなくて、提案というか、そういうのがあったらいいなという意見を述べさせていただきます。

私たちの地域にもまーいまい Naha の図書館あるんですけども、そこで定例のおはなし会とかありますよね。

そこで、高校生とか、中学生がボランティアでおはなし会をするっていうのも、やってほしいなとかって思ってたんですね。

ていうのは、おはなし会とかされる方は年配の方が結構多くて、みてた感じ、子どもに刺さらないというか、正直な意見なんですけども、子どもがぼかんとしてることが多いというか、見てて思ってた、せっかく子どももやってるんだから、高校生も交えて、子どもは子どもの役でやったりとかっていうのもあると、幼児とかにも刺さっていいのかなあと思いました。

また聞いた話では、幼少期から本を読むと生涯年収が変わるという、そういうことも聞いて、だから子どもに本の大事さ、本を読む習慣というのを、早いうちから学んで欲しいなと思うので、そういったお話会に、中学生とか高校生のボランティア募ってとか、また学生さん、教育学部に通ってる方とか、そういった人をお願いして、ボランティア証明を出すとか、その子たちのやりがいにもなるし、人材育成にもなるかなと思います。

○図書館のことで、市内のあるお母さんから相談受けたときに、この子はフリースクール通っているんですね、不登校で、ただ、フリースクールやってることも学校から認めてもらえなくて、オールIなんですね。

高校受験のときに内申点が必要なんですけども、次年度からもしかしたら文部科学省さんが、過大評価することも、施策に入れるようなこと聞いてんですが、せっかく地域で学んだことを学校に持っていっても評価されないのは、フリースクールでも起きてるわけですから、例えばこういう図書館などのところで学び直しをしてとか、学んだ場合にその子は学校の評価できるような事例が出たらいいんじゃないかなと思って、図書館のこういう講座の活用と、もう 1 個は、インターンシップっていうのが、58 ページの方にあるんですけども、そこも一般的な子だけじゃなくて、例えばリタイヤした方とか、もしくは転職したい方が図書館司書を学びたいとか、ジョブチェンジしたいなっていう時の、職業チェンジするための学びとしてのインターンシップがあるとどうかなと思ってるんですね。

海外では、仕事を転職する時に学ぶことを、生涯学習に含めると聞いたことがあったので、そういうことも図書館っていうこの社会資源の活用ができたらいかなと思ったんです。

もう 1 点、障がい者向けのサービスがあったんですが、僕今、読字障害の方の家庭教師やってまして、すごくディスレクシアの方の教材って少ないんです。

こちらにデージー教材の普及とありましたけども、そういったことをもうちょっと周知するというか、学校にも少なくて、今困ってる方多いので、この取り組みをもっと広げるような活動が盛り込まれてきたらいいなあと思ってちょっと私、意見でした。

もう 1 点、僕 TikTok を3時間観るんですけど、何観てるかって、子どもたちが何ではまるるか観てるんですけど、動画がすごく言葉を短縮されてるから早いんです。すると、せかされてくるんです。それで多分ドーパミンが過剰になってくるんですけども、安心して学ぶってことができないので、転職したい方とか、復職したい方たちが、そういう YouTube とか、SNS で特殊詐欺にかかるんですね。

そういうことを、図書館とか、社会教育の現場でゆっくり学んで、ちゃんと自分の仕事感とかライフキャリアを考えるとこのようなことの講座があれば、子どもたちも、そういう部分で、稼ぐとか、皆 YouTuber になりたいと言いますけど、なった後のこと考えないから、そういうことをまた学ぶようなことも図書館で、いろんな本があるので、学べたらいいなというときに、そういう社会資源の活用を那覇市さんの方から提供されたらどうかなっていう、補足でした。

2 その他 (1) 第3次那覇市生涯学習推進計画について(生涯学習課)

<事務局 報告>

○先日の、策定に至ったパブコメ勉強会に私も参加させていただいたんですけど、いろいろな意見が出て、この計画を策定した後に、市民に受け入れられて実践していくってところで、文言がちょっと読みづらいとか、もうちょっと読みやすいようにっていう、いろいろな意見が出て、その(意見が)プロローグのほうで反映されてくるのかなと思ってるんですけど。そういったことも含めてですね、何かあればよろしくお願いします。

○意見、感想になるんですけども、これが今度の3月に多分公開されて、(令和)7年度から5年間(の運用期間)ということなんですけど、この場で出てきた、利用者数でわからないような指標というようなチェック基準がないのかな、と思ったんですね。5年後ってすごく変わってると思うんです。23ページにPDCAがあったり、29ページに多分これVUCA(ヴーカ)って読むんですかね、そういうこと書かれてるんですけども、この計画自体がそういう変容する社会に対して、どうやってチェックするのかなと僕見えないなっていうのがありまして、それで31ページ目の2番の(3)にある「時代変化に対応可能な計画書」というところに、どの辺がそういうことが盛り込まれてるかってのがちょっとわかりにくかったんです。

(1)番のところに、持続可能でありますけれども、今日議論してきた中のものが、最後の56ページの中のアンケートを見てみると、共働きで働くことに精一杯で、学びたいけども時間がないとか、お金に繋がるような学びがしたいとか、そういう意見というのがどういうふうにもこの計画に盛り込まれていってるのかってのはちょっと僕は読み取れなかったんで、その辺が上位施策の中に入ってるかと思うんですけども、このまま5年間進んでいくのかなってちょっと、これまでの前提で作られてるように感じたもので、ちょっと気になったっていう感想でした。

●計画の評価に関しましては、こちら23ページの(2)の②の方で、各事業課につきましては、アウトプット評価ですね、各事業で、各課目標を定められてると思いますので、推移とかを見て、次年度はどう生かしていくかっていうのを図っていく予定になっています。

○この公表ってまずあるんですけども、公表されたことに気づけないのでここに、どこのページですよとかがあったりとか、(公表)されたものが、どう反映するのかっていうのがわかりづらいなあと思ったんですね。56ページ目とかを読んでも、この生涯学習推進計画が、先ほどの公民館の講座とか、なは教育の日とか、関連していくと思うんですけど、その時に、今日出てきた課題とかいろんなものがここに入ってるようには思えないっていうか、要は地域の地縁をどうつなぐとか、あとは(公民館利用者数が)今後微増していくような利用もあると思うんですけど、そこに対するDXに関するような指標とか内容がないんじゃないかなあと思ってですね、この3番の、第5次那覇市総合計画の中間検証及び見直しに関わる社会情勢変化の…この力

ギ括弧の下のところは何かよくわかりにくいなと思ったんですよ。

いや、その計画はあるんですけど、これがどうやって公民館とか図書館とか、社会教育、前回の委員会では厚労省の話もあったと思うんですけど、そこに繋がっていくような感じがしなくてですね、それを 5 年間これで進んだときに、何か、また同じことになっちゃわないのかなって。

●今回、各課から 2 事業程度出していただいていて、第3次計画においてはこの事業を各課においてアウトプットの推移を見ていくんですけども、必要に応じた新しい事業を追加したり、今回リスクリングがちょっと予算でなくなっているんですけども、次年度以降に予算がつき次第、今回の新しい視点を取り入れた事業を追加していく予定ではあるので、随時求められている課題に対して、事業内ではもちろん各課でブラッシュアップしていくと思うんですけども、計画自体、現時点では掲載事業を通して生涯学習推進をしたいと考えております。

○例えばですけど、今日ここに来てこれを見たので読めてないんですけども、33 ページの 4 番の意見反映とか、あとは⑤の提案と⑦の答申とありますけど、この⑤④⑦の答申、提案、この意見というのが、この中で読めたりするんですか。で、どう反映されて、前回の第二次の生涯学習推進計画とどう変わったかっていうのを見れるページもあるんですか。

●第 2 次についての評価につきましては、4 ページですね。

この第二次那覇市生涯学習推進計画の評価を踏まえて、第三次につなげております。

39 ページにも評価一覧を掲載しております。

○29 ページの、AAR サイクルってことが、PDCAとは違って、学びの主役である個人を対象としてありって書かれてるにもかかわらず、個人の意見がどこに載ってるのかなってことが見当たらなかったの、こういう情報がよくわからないなと思ったので、第二次から第三次行くときに、何を変えたり、何を追加して、DX だったり、持続可能に反映するのかなというのが、もうちょっとわかりやすくあればいいなと思ったっていうぐらいです。

○23 ページに、あるいはですね、進捗管理のところ、目まぐるしく変化する中で、必要に応じて計画、取り組みを随時、見直し更新していくっていう話だと思いますので、今できてるのは一応これで進めていく中で、また新たに事業を検討していくっていう機会が設けられると思います。その都度に計画の見直しっていう時期がやってくるってことですね。

●進捗管理を毎年行っていく予定であります。

○実は私、この推進計画のプロセスの中の、生涯学習推進協議会のメンバーで、答申を議論した経緯があります。今、ご質問ご意見あった、いわゆるその評価をどうしてって、どうやって見直していくのかっていうところは、これまでの第二次の計画を毎年進捗評価というか、チェックするんですけども、もともとこういう数字を目指したいっていうものがあるものが、実態と、コロナもあったんですけども、大分離れていたり、或いはそれによってはもう簡単にクリアしていたりとか、そうすると、もう決着ついた時点で残り 4 年間計画がありますっていう時にじゃどう進んでいくのかみたいなのがやっぱりわからなかったり、評価しづらかったりって

うところがあつたので、協議会の中からはいろんな意見出ましたけれども、その評価の仕方っていうところ、きちっと適切に掲げた目標が妥当なのかとか、それをクリアして、クリアしたらどうするのかとか、そういうようなプロセスというものをもう少し見直した方がいいんじゃないか、みたいな意見がおそらくあります。

そこで、いろいろ検討されていろんな先ほどのウェルビーイングに関連する指標の評価に入れてとか、いわゆる担当課が掲げた目標に対して到達したかしていないかだけではなく、いろんな角度からの評価ができるようにということになっていったんだと思います。

で、計画の進んだ先の事業の見直しとか追加とかっていうのはおそらくなされると思いますけれども、おそらくそういう方向では議論したので進んでいくのかなと思っています。

○今の話の流れの関連ですが、この 39 ページの評価一覧を見た時に、達成度のところの停滞っていうところがやっぱり目についてしまって、今の話でも先ほどの公民館からのお話もあった通り、公民館利用者数が減ってるから停滞ってなるとこれだけ受けとめてしまうと違う印象を受けてしまうんで、やっぱりいいように変わってる部分もあるわけじゃないですか。そこを、この紙資料の中から読み取れるようなページがあってもいいのかなと、現状の課題がどこにあるかってことを受けとめて、やっぱ次に向けていく新しい計画に繋がっていくってイメージがちょっとここでなんか分断されていてですね。

今日しっかり説明を受けたので、私たちは理解したと思うんですけども、もし何か工夫ができるのであれば、ご検討いただければと思います。

2 その他 (2) 各委員より 共有したい事項など

○僕、社会教育委員の会議に今年度初めて参加させていただきまして、最初就任するときに、社会教育委員の定義の中に、研究調査を行って、教育委員会に提言するっていう文言があつた気がするんですよ。

他の委員からも 1 回目の会議で話があつたかと思うんですが、今後、私たちはこの、教育委員で調査研究する場合は、どうやってやったらいいのかっていうことと、調査研究費用も出るのかなっていうところを伺いたいんですけども、こんなにすごい有識者がいる中で、皆さんとチームを作ってますね、何かできたらどうかなと思ったので、そういう、社会教育で何していいのかわかってないっていう質問なんですけども、お願いします。

●事務局としても悩みながら、どういうふうに今後この会議を進めていったらいいのかなと考えています。

これまで、定例会、議案に沿って、3 回ないし 4 回、年に集まっていたいていくっていうことを行ってきたんですが、社会教育法の中に、社会教育委員の職務として、社会教育関係の事業とか内容に関して調査研究を行う(と示されています)。そして、那覇市の教育委員の会議にも参加して意見を述べるができるというような職務もございます。

那覇市の社会教育委員の会議を今後どのようにしていくか、1 回目の(会議の)ときも、他の委員からのご発言があつたので、ぜひ一緒に考えていきたいと担当としては思っている次第でして、社会教育委員の皆様がご参加いただけるような研修も、少し機会もふやしていきたいなというふうに考えています。

那覇地区の社会教育委員の連絡協議会がございます。浦添と那覇市と久米島町、3 市町村で、那覇地区の組織なんですけど、そこで研修の場を今後も持ちたいなっていうのと、こういう会議の場で何か貢献する場も持てたらいいなというふうにも考えています。

次年度以降に進めていきたいというのと、(調査研究の)予算の話なんですけど、大変申し訳ないんですが、

確保できていないんですが、工夫しながら何かできたらというふうに考えている次第です。

●役割の部分で、調査研究の役割をどうするかっていう、私も入ってる（県の社会教育）委員の中で話題になって、やっぱり現場行かないとねって話になったんです。それで 2、3 人 1 組でチームを作って、生涯学習推進計画の重要施策を率先しているようなところを、それぞれ 2 ヶ所ずつは絶対回るっていうのを、年間で決めていきました。予算に関しては、1 回分の交通費だけは出ると。それ以降は、みんな各自で各々手出して頑張るぞっていう、これが社会教育委員の皆さんが合意したので、行った人は、3 ヶ所 4 ヶ所、行く場合は離島にも、それぞれ行きました。車 1 台乗り合わせて、現地に行ってアポ取りも自分たちでやるんですけども、そういうようなことも、実際に推進計画とどんどん離れていってたら意味がないねっていうことで、役に立つ計画つくりたいっていうところから一応始めたんですけど、今のところ楽しくやっていますが、負担に思ってる委員がいるのかいないかってわかんないですけど、私自身はすごい学びになってるなど。

思ってたのをこういう場で、3 人 1 組ぐらいで 15 分ずつプレゼンをして、こんなふうなことがわかってきた、こんなふうなことを提案に入れたほうがいいんじゃないかみたいなことを、今やっております。

県の委員の皆さんは実態知ってると思うので、ぜひ機会あれば、共有できればと思います。

○先ほどの生涯学習推進計画の 57 ページの市民の声に、子どもたちへの家庭教育も充実しておらず八方ふさがりを感じているっていう、こういう方たちと僕話す場ができたらなど。そこで、まーいまい Naha さんで、会議をした時の会場利用費とか、あと逆にこういうことを考える時の論文を多分読むときってお金かかるじゃないですか、おそらく。そういう、エビデンスを見るときに経費とかですね、そういうことが予算化できたらいいなあとと思って、交通費プラス会議とかという経費があったらいいなっていうちょっとリクエストです。貴重なご意見、ご感想ありがとうございます。

○そもそも、社会教育委員の役割であったり、何をすべきなのか、できるのかっていう、その情報交換しながらですね、必要な施策に向けて必要な意見交換会議を持っていくっていう中で、その中に出たもの、実際に、まあ実働部隊なんですよ。

で、事務局は、那覇市側っていうことなので、実働部隊は私達っていうところで、その施策に合ったことを研究調査していくっていう機会なのかなと思ってますので、また別ですね、そういった機会をまた設けていきたいと思いますのでそれでよろしいでしょうか。

<事務局より連絡事項 等>